

第5節 その他付帯施設

5-1 公園緑地計画の検討及び設定

配置計画における公園施設は、現況の森林資源を活かしつつ択伐や補植により多様な森を創出し、市民の環境学習や体験の場となる森のテーマパークとする。

以下に公園緑地計画イメージとして一例を示す。

表 3-5-1 施設計画の概要

施設名	概要
千年の森	対象地の中で優良な生育を示すスギやヒノキの分布するエリアを選定して千年の森に位置づけ、大径木を将来にわたって保全して森林施業を主産業とする当地区のシンボルとなる森に育成する。
体験の森	森林施業の見本となる展示林の施業体験を通して学校や企業の環境学習や社会貢献の場として活用し、間伐した木材を中心に工作活動も加えて体験活動に幅を持たせ、リピート利用を促進する。
照葉の森	アラカシやシイなどの常緑照葉樹が優占する林分を択伐により極相林をモデルに植生を遷移させ、環境学習の題材とするとともに、森の様々な表情を感得できる照葉の森に育成する。
紅葉の森	カエデ類やコナラなどの紅葉や黄葉が美しい落葉樹が優占する林分を択伐により明るい林相に改良し、散策途中の休息や尾根からの眺望、林床の野草の風情も楽しめる紅葉の森に育成する。
万葉の森	万葉集に詠われている約 300 種の植物の中から、当地域の生育環境になじむ樹木や草花を択伐により保全し、和歌を学習しながら樹木オリエンテーリングが楽しめる万葉の森に育成する。
瞑想の森	スギやヒノキ等が発するテルペンによってカビや細菌の侵入を防ぐフィトンチッド効果やストレスを軽減するアロマテラピー効果を活かし、針葉樹林内を歩くことによって効用が享受できる健康森林セラピーの場として活用する。
冒険の森	緩斜面の木立を活かして空中回廊風の木製デッキを架け、これに様々な全身運動ができるアスレチック遊具を設置し、普段とは異なる目線の林内空中散歩と冒険心が養える遊び場として活用する。
花園の森	間伐と択伐により落葉樹が優占する明るい林相に改良し、散策途中の休息や尾根からの眺望とともに、林内照度を高くすることによって、林床に地域に自生する野草の群生地を育成する。
生き物の水辺	上流側や両サイドの樹林地から水が集まる谷筋の湿地性の環境特性を活かし、水性・湿地性植物の進出・生育を促し、水性昆虫や魚類が生息できる水辺ビオトープを創出する。
ふれあい広場	平坦な広がりを活かして開放的な芝生（ノシバ）の広場を造成し、対象地で展開される様々な森林活動の拠点や地域との交流イベントなどの拠点として、多目的な利用に供する空間とする。
湿生花園	上流側や両サイドの樹林地から水が集まる谷筋の湿地性の環境特性を活かし、四季折々の水辺植物の開花が楽しみながら、水辺の自然が観察できる場を創出し、環境学習に活用する。
調整池	対象地の下流部に設置し、豪雨時の雨水の流出を抑制するとともに、生き物の水辺との一体的な環境とし、常時底面に水を湛えて水を求める野鳥や小動物等の生息環境に寄与する。

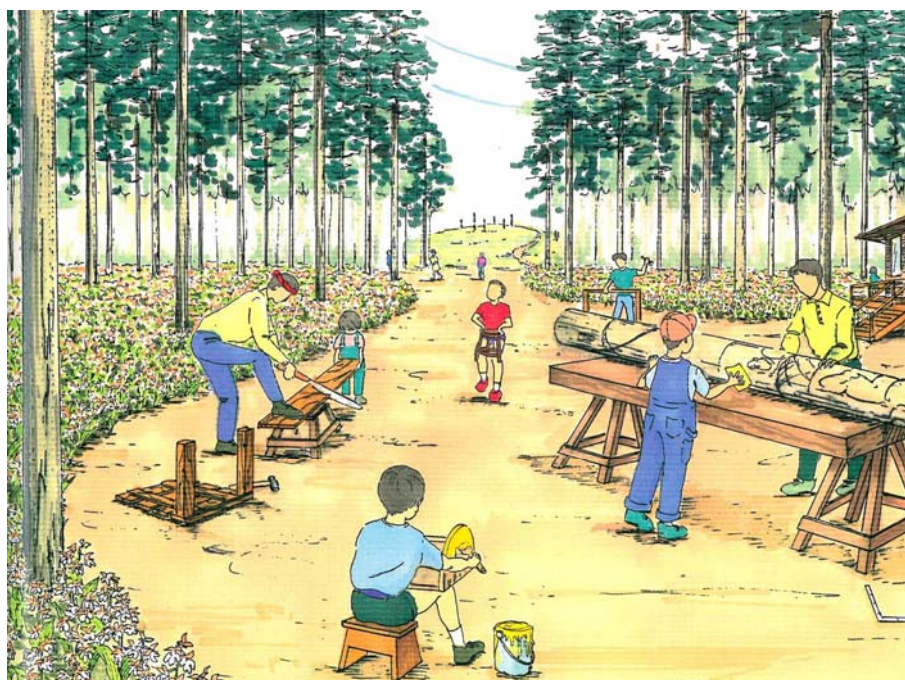
1) 千年の森

対象地の中で優良な生育を示すスギやヒノキの分布するエリアを選定して千年の森に位置づけ、大径木を将来にわたって保全して森林施業を主産業とする当地域のシンボルとなる森に育成する。スッキリした見通しを確保しつつ、林床には地域内で自生する耐陰性に富む草本類（シャガ・ツワブキ・ギボウシ等）の進出・生育を促し、遊歩道に彩りを添える。



2) 体験の森

森林施業の見本となる展示林の施業体験を通して学校や企業の環境学習や社会貢献の場として活用し、間伐した木材を中心に工作活動も加えて体験活動に幅を持たせ、リピート利用を促進する。作業のしやすい緩傾斜地をフィールドに選定し、間伐や工作活動を地域住民の指導によって行い、都市と地域との交流を深める。



3) 照葉の森

アラカシやシイなどの常緑照葉樹が優占する林分を、択伐により極相林をモデルとした植生に遷移させ、環境学習の題材とするとともに、森の様々な表情のひとつを感じ得る照葉の森に育成する。鬱蒼としたほの暗い雰囲気になるため、林床には地域内で自生する耐陰性に富む中低木類（ヤブツバキ・アオキ等）の進出・生育を促し、遊歩道に彩りを添える。



4) 紅葉の森

カエデ類やコナラなどの紅葉や黄葉が美しい落葉樹が優占する林分を択伐により明るい林相に改良し、散策途中の休息や尾根からの眺望、林下の野草の風情も楽しめる紅葉の森に育成する。頂上には四阿を設置して休息の場とし、木洩れ陽のさす林床には地域内で自生する半陰性の草本類（ホトトギス・キキョウ等）の進出・生育を促し、遊歩道に彩りを添える。



5) 万葉の森

万葉集に詠われている約 300 種の植物の中から、当地域の生育環境になじむ樹木や草花を択伐により保全し、和歌を学習しながら樹木オリエンテーリングが楽しめる万葉の森に育成する。保全する樹木や草花は花や葉、実などに特徴があり、なじみのもてる種類を中心に選定し、老若男女の別を問わず、幅広い層に受け入れられる構成とする。



6) 瞑想の森

スギやヒノキ等が発するテルペンによってカビや細菌の侵入を防ぐフィトンチッド効果やストレスを軽減するアロマテラピー効果を活かし、針葉樹林内を歩くことによって効用が享受できる健康森林セラピーの場として活用する。林床には地域内で自生する耐陰性に富む低木類（ヤマブキ・ガクアジサイ・ウツギ等）の進出・生育を促し、遊歩道に彩りを添える。



7) 冒険の森

緩斜面の木立を活かして空中回廊風の木製デッキを架け、これに様々な全身運動ができるアスレチック遊具を併設し、普段とは異なる目線の林内空中散歩と冒険心が養える遊び場として活用する。木立の密度を疎にして林床には地域内で自生する耐陰性に富む草本類（シャガ・ツワブキ・ギボウシ等）の進出・生育を促し、遊歩道に彩りを添える。



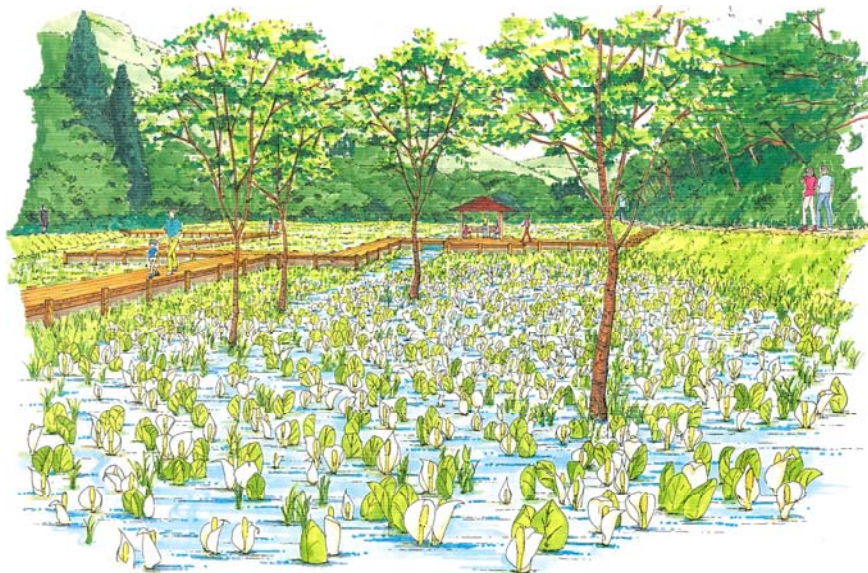
8) 花園の森

間伐と択伐により落葉樹が優占する明るい林相に改良し、散策途中の休息や尾根からの眺望とともに、林内照度を高くすることによって、林床に地域に自生する野草の群生地を育成する。遊歩道沿いに四阿を設置して休息の場とし、周囲にはカタクリやササユリなどの進出・生育を促す。



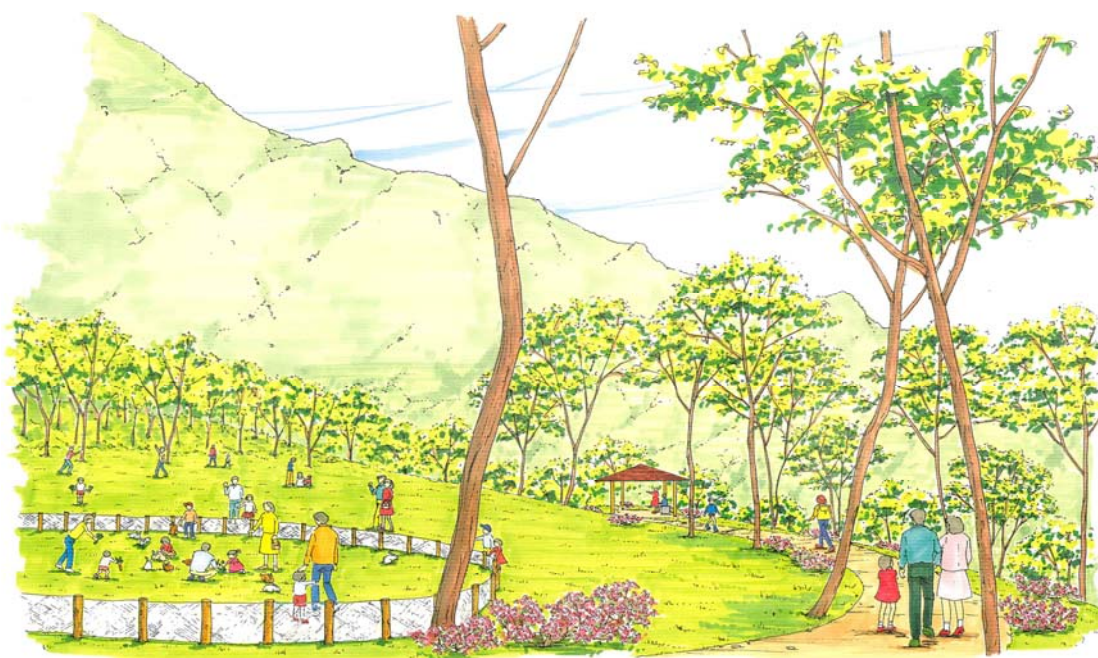
9) 生き物の水辺

上流側や両サイドの樹林地から水が集まる谷筋の湿地性の環境特性を活かして水性・湿地性植物の進出・生育を促し、水性昆虫や魚類が生息できる水辺ビオトープを創出する。湿地には木製のデッキを巡らせ、植物や小動物が間近に観察できる環境学習の場とする。



10) ふれあい広場

平坦な広がりを活かして開放的な芝生（ノシバ）の広場を造成し、対象地で展開される様々な森林活動や地域との交流イベントなどの拠点として、多目的な利用に供する空間とする。広場には四阿とトイレを設置し、対象地全体の休息と便益機能に対応する。



11) 湿性花園

上流側や両サイドの樹林地から水が集まる谷筋の湿地性の環境特性を活かし、四季折々の水辺植物の開花が楽しみながら、水辺の自然が観察できる場を創出し、環境学習に活用する。水辺植物は在来種の水性・抽水性・湿地性の草本類（コウホネ・サワギキョウ・ノハナショウブ・ガマ等）とする。



12) 調整池

対象地の下流部に設置し、豪雨時の雨水の流出を抑制するとともに、生き物の水辺との一体的な環境とし、常時底面に水を湛えて水を求める野鳥や小動物等の生息環境に寄与する。水位が低下して露出しても棲家となる礫による多孔質な自然風のしつらえとし、周囲の景観との調和にも配慮する。



5－2 基本計画図

公園緑地計画図を次頁に示す。

